

ストリートメディア社、ニッセンと新メディア「ほんやチャンネル」事業スタート

—書店店頭を高機能デジタルサイネージ、同社のカスタムメディア事業第一弾として展開—

2009年10月26日

ストリートメディア株式会社(本社・東京都千代田区、代表取締役社長・大森洋三/以下ストリートメディアと表記)は、株式会社ニッセンホールディングスのグループ会社で、通信販売の株式会社ニッセン(本社・京都市南区、代表取締役社長・佐村信哉/以下ニッセンと表記)と、書店店頭を高機能デジタルサイネージを設置、新しい独自メディアとして展開する「ほんやチャンネル」事業を、このほど首都圏の約50店の書店から実験的にスタートさせる事になりました。書店の店頭を設置され、かつネットワーク化されたデジタルサイネージ事業としては初のケースであり、ストリートメディア社の「カスタムメディア事業」の第一弾です。

両社の役割として、ストリートメディアは、サービスの開発、コンテンツの編成・配信、さらに情報を携帯電話に取り込んだあとの、携帯マーケティングの提案を行なう予定です。ニッセンは、書店ルートを主とするカタログ配布ネットワーク及びカタログ通販会員数において業界内で圧倒的な強みを有しており、この強みを活かせるデジタルサイネージ事業に参入する事で、新たな BtoB 型メディア代理店事業の拡大を図ります。

店頭を設置するデジタルサイネージは、ストリートメディア社が業務提携している、LED 看板等の大手、東和メックス株式会社製のデジタルサイネージ「BRID」(※1)。ストリートメディア社のソフトが組み込まれており、それによって映像コンテンツ、LED と連動した情報が FeliCa を介して携帯電話に取り込むことが可能です。更にポストサイネージ (FeliCa タッチ後のサービス) もストリートメディア社の開発したものにより実現されています。このサイネージでは、雑誌を中心とした書籍、コミック、DVD、CD など書店で取り扱う商品の広告、発売日や店舗のフェアやイベント情報のほか、週間ランキングや天気予報等を織り交ぜて、タイムリーに配信、放映していく予定です。

TPO に応じて店頭での告知を効果的に行う事により、書店への来客数のアップと売上拡大が期待できます。また、モバイルサイトとの連携を可能にしたため、書店への集客や広告効果を上げるのみならず、携帯へのメルマガ発行等、その後のマーケティングにも活かせる新しいメディアとして期待されます。

10月下旬から1月下旬まで、首都圏の約50店舗の書店で、テストランを行ないます。この結果を踏まえ、新規設置拠点ネットワークの拡大を図っていく予定です。

※1 : BRID

http://www.towa-meccs.co.jp/seihin/digitalsignage/liquid_led/ds_l415/index.html

■お問い合わせ先

ストリートメディア株式会社 担当：廣瀬 純一(ひろせじゅんいち)

E-mail : info@streetmedia.co.jp

URL : <http://streetmedia.co.jp>